



産業医学のプリンシプル～大切なこと

—産業医学振興財団40周年記念誌—

編者：産業医学ジャーナル編集委員会 発行：産業医学振興財団 定価：(1,500円+税)

本書は産業医学振興財団の40周年を記念してのものである。一般的に、この種ものは単なる記録誌の域を出なくともよいのであるが、この本にはかなりのはみだしがある。それは100を超える当代の労働衛生・産業保健領域の識者達によるエッセンスが詰まっているからである。

それらを簡明に提示することは至難の業であるが、あえて試みるとすれば、土屋健三郎先生にちなむお話の中に出てくる(産業医学に携わるに際してのベースになるものは)「哲学する医師」との記述に要約されているといってよいだろう。要は自分で考える、の意であるのであるが、産業医学という、領域も対象も千変万化なものに対して、それが何であるかは自分の手探りの経験の中

から自分で編み出せ、と言っていると解釈したい。

私たちの社会では、組織というものは始まってから40～50年経って、ある程度の体を成すと言われている。財団も40年の歴史を積み重ね、それだけでも本書を推薦する理由になるかも知れない。しかしそれだけでなく、実際この本を読んでも、どこを読んでも、考えさせる何かが溢れているのである。もっとも、どう感じるかは読み手側の感性にもよるかもしれないのであるが……。

何はともあれ、産業保健の世界に関わっている諸氏には是非ともお勧めしたい一冊である。

角田 透

(了徳寺大学医学教育センター教授、
杏林大学名誉教授)



職場のラインケア 研修マニュアル (CD付き)

—管理職によるメンタルヘルス対策—

著者：関屋裕希、川上憲人、堤 明純 発行：誠信書房 定価：(2,400円+税)

現在、多くの事業場において、定期的にメンタルヘルスに関するラインケア研修が実施されている。しかし、皆さんはその効果を実感できているだろうか？ 効果が実感できていない場合は、科学的根拠を基礎に置いたラインケア研修の設計ができていない可能性が考えられる。

本書では、綿密な文献レビューに基づき提案されたラインケア研修のガイドラインが示されている。具体的には、「対象の選定」、「研修内容・形式」、「研修頻度・期間」について、推奨される内容と、ヒントとなる内容とが明快にまとめられている。これらの内容は、各事業場においてラインケア研修を設計する際の資

料として大いに活用することが期待できる。

本書にはCD-ROMが添付されており、この中にはラインケア研修に使用できるスライドが収録されている。また、本文中にはスライドを解説する際のポイントについても詳述されている。そのため、言わば本書の内容を実践するだけで、誰でもある程度のラインケア研修を行うことができる仕様になっている。

産業保健スタッフの皆さんには、ぜひ本書を手にとっていただきたい。そして、科学的根拠を基礎に置きつつ、各事業場の状況に合わせてカスタマイズしたラインケア研修を設計し、実施していただくことを期待したい。

大塚泰正

(筑波大学人間系心理学域 准教授)

編集委員 (五十音順・敬称略)

委員長 相澤 好治 北里大学名誉教授
大西 洋英 独立行政法人労働者健康安全機構産業保健担当理事
加藤 隆康 豊田衛生管理者研究会顧問
神ノ田昌博 厚生労働省労働基準局安全衛生部労働衛生課長
甲田 茂樹 独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所長代理

河野 啓子 学校法人皖学園四日市看護医療大学名誉学長
興梠 建郎 新潟産業保健総合支援センター所長
浜口 伝博 ファームアンドブレイン社代表/産業医
東 敏昭 学校法人産業医科大学学長
松本 吉郎 公益社団法人日本医師会常任理事